

『星陰りて、謀り響く』  
PC3 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: ララバイ

ネタバレ防止用ページ

独白。

私は知っている。この世界を隙間なく、恐ろしい悪意が覆<sup>あ</sup>っていることを——陰謀を  
暴くべき『夏音』すら、その垣<sup>ゐ</sup>塙<sup>つ</sup>の中であることを。

私は犯人ではない。私が刺したひとは、もっと美しい瞳<sup>ひとみ</sup>をしていた。

## キャラクター設定

本名	自由
コードネーム	ララバイ Lullaby
年齢	自由（20 歳以上がおすすめです）
性別	自由
一人称	自由
容姿	自由
誕生日	5 月 2 日（おうし座）
血液型	A 型 Rh(+)
出身地	χ 国 南西飛び地 「マリボネ」 市
職業	元の職業は自由。失職後、夏音専属で働いている。
性格	人の視線に敏感で、常にビクビクしている。他人の悪意や利用してやろうという魂胆 <small>こんたん</small> を感じ取り、「目が汚れている」と表現している。他人の嘘は嫌いだが、自分では割と平気でうそをつく。
その他の設定	出身地、両親の出自 <small>しゅつじ</small> によって、差別を受けていた。調査能力がとびぬけて優れている。

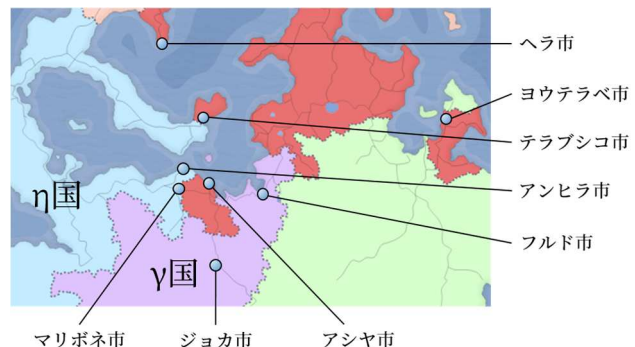
## 孤独な記憶 生い立ち～夏音発見

小さいころから、ひとの視線が怖かった。さげすむ目線。たくらむ目つき。

ああ、こいつも腹に何か抱えてやがる。積もった違和感は、あるウワサ話を聞いて、  
ストーンと腑に落ちた。なるほど、世界が狂ってるのか。

ララバイが生まれたのは、<sup>カイ</sup>χ国の南  
西飛び地のマリボネ市だった。ララバ  
イは差別を受け育った。<sup>ガンマ</sup>γ国民と<sup>とうぞく</sup>冬族  
の間に生まれた子供だからである。

南西飛び地の住人は、γ国をひどく恨  
み、冬族をさげすんだ。



南西飛び地は、かつて本国の一部だった。しかし 70 年前の敗戦で、周囲の主要都市  
を <sup>ガンマ</sup>γ国と <sup>イータ</sup>η国に割譲した。「割譲の残りカス」。γ国にも、η国にも、あまつさえχ国本  
国にさえバカにされた怒りは、行き場を求め煮えたぎっていた。

戦前、χ国民は 4 つの階級に分類されていた。王族の<sup>しゅんぞく</sup>春族、貴族の<sup>かぞく</sup>夏族、平民の<sup>しゅうぞく</sup>秋族、  
「被差別階級」の冬族。γ国と冬族の血を引くララバイは八つ当たりの<sup>かつこう</sup>恰好的だった。

人の視線におびえるうちに、ララバイは「目の濁り」に気が付くようになる。第六感  
に近い感覚で、ララバイは相手がどんな人間であるか見抜けるようになっていた。

<sup>たいてい</sup>大抵の人間は直接、悪意を向けてきた。残りは、ララバイを利用しようと近づいてき  
た。だから、

「政府が国民を宗教的儀式に利用しようとしている」

というウワサ話を聞いたとき、ララバイは納得した。

おかしいのは自分じゃない。この国がおかしかったのだ、と。

ウワサの元をたどると、「夏音」に行き当たった。ここが自分の探していた場所かも  
しれない。ララバイは夏音を調べてみることにした。

うまく隠してあったが、夏音の本部は、北西飛び地のヘラ市にあるようだった。国立  
コウトスミ大学文学部、民俗学教室に訪れたララバイを、夏音のメンバーは驚きととも  
に迎え入れた。

## アリアとの記憶 夏音加入～恩返し

夏音にいた人間はしかし、世間の人と大差なかった。<sup>さいぎしん</sup>猜疑心と嫌悪を振りまく視線は<sup>こしたんたん</sup>虎視眈々と語る。コイツを利用してやる。

ここも<sup>りそうきょう</sup>理想郷ではない。<sup>らくたん</sup>落胆するララバイに声かけられる。振り返る――  
<sup>す</sup>透き通った瞳。ララバイは、恋に落ちた。

そこにいたのは、アリア。民俗学研究室所属の4年生。ララバイが南西飛び地出身だとか、γ国の<sup>ちすじ</sup>血筋だとか、そういったことを一切気にせず、アリアは「いらっしゃい！」と<sup>かんげい</sup>歓迎してくれた。

197年7月。リーダーのフーガ、ロンド（民俗学教授）、カプリッチオ、キャロル、アリアに、ララバイを加え、夏音のメンバーは6人となった。

ララバイは<sup>おんみつ</sup>情報収集と<sup>おんみつ</sup>隠密調査を担当した。視線にさといララバイにうってつけの仕事だった。何より、アリアを手伝う任務も多かった。アリアの研究分野は「χ国の宇宙人信仰と失伝した呪術性に対する民俗考古学的アプローチ」だった。研究内容はさっぱりだったが、アリアの力になれることがうれしかった。

アリアの目はしかし、少しずつよどんでいった。理由は明らかだった。他のやつらがアリアを引きずり込んでいるのだ。

アリアとよくいたのはカプリッチオだった。二人の関係性は、見つめあう視線で明らかだった。飛びぬけて<sup>おか</sup>狂気に侵されているのはキャロルだったが、恋人であるカプリッチオの影響力は<sup>ぜつだい</sup>絶大だった。あの害虫をどう<sup>くじょ</sup>駆除してやろうか。

カプリッチオを殺しあぐねている間にも、アリアの瞳は<sup>くも</sup>曇っていく。どうにかしないと。カプリッチオは大丈夫なのか、繰り返し問うララバイにアリアはありがとう、とほほ笑むだけだった。

200年3月、<sup>しゅうしかてい</sup>修士課程を終えたアリアは<sup>お</sup>脱退した。アリアの瞳は、見る影もなかった。平均的な人間より、ちょっとキレイなだけ。前年7月の経済不安をうけ、地元ヨウテラベ市で就職するから。そう語るアリアは見るまでもなくウソをついていた。

前年7月の経済不安。χ国全体をのみこんだ不況は、ララバイにも無縁ではなかった。夏音に入る前から続けていた仕事を失い、差別も激しくなっている。ヘラ市の夏音本部でララバイを<sup>やと</sup>雇ってほしい、とフーガを説得したのは他ならぬアリアだったのだ。

# Goodnight Aria

とはいえ、このウソをララバイはあまり心配していなかった。コイツらから離れて、地元で過ごせばアリアはまたあの瞳を取り戻す。それまでじっくりと待とう。

一年後、夏音を抜けた人との接触が禁じられた。脱退した人間は洗脳されている、とフーガは言っていたが、そいつの言葉をハナから相手にするつもりはなかった。

それ以上に大切なのは、カプリッチオとアリアが会わなくなることだった。忌々しいことに、アリア脱退後もカプリッチオは何度も会いに行っていた様子なのだ。毒気が抜けるまであと少し待とう。

そして半年後、研究調査の任務で、ヨウテラベ市へ向かった。アリアの故郷だ。

そろそろだと感じたララバイは、アリアが勤めているヨウテラベ市市立図書館を訪れた。念のため、カプリッチオに変装した。

そこで見たアリアは果たして――。

樽一杯の泥水に一滴の蜂蜜酒を垂らしても、それは泥水である。

樽一杯の蜂蜜酒に一滴の泥水を垂らしても、それはやはり泥水である。

急に連絡が途絶えたのは夏音が消滅したからだ、とアリアは考えていたらしい。もし生きているなら、カプリッチオに一目会いたい。汚れた雪が二度と白くならないように、アリアのけがれ切った瞳からは「ララバイを利用してやろう」という魂胆がありありと透けて見えた。

「地元のことでララバイの手伝いになるなら」

「アリアが知っている、人目に触れにくい場所へ案内してほしい」

アリアが自分で選んだ死に場所は、郊外の廃ビルだった。

かつては栄え、今は朽ち果てた場所。

アリアも、もう自分が救いようないって、わかってたんだね。

出会った頃の正しいアリアを最後に見れた気がして、

降りしきる雪の中、ララバイの心は少し暖まる。

おやすみ、アリア。

## 孤独な記憶 アリアの喪失～現在

アリアを殺したとフーガに告げ、証拠としてアリアのスマホを渡した。

シンプルなロック画面には「——の作品番号を知る人に渡してください」と書いてあったが、どういう意味かは分からなかった。

ララバイの手元には、アリアのポケットに入っていた指輪が残った。カプリッチオへの贈り物のようだったが、ララバイはそれを指にはめるでもなく、カプリッチオに渡すわけでもなく、ただ何となく無造作に変装道具の中に放り込んで、時折眺めていた。

『裏切り者』がいなくなって、フーガは安心したようだ。ひどい話だ。フーガはアリアの死を夏音全体で悼<sup>いた</sup>むどころか、「メディアを見たら洗脳される」と夏音全体に伝達した。

<sup>こっけい</sup>滑稽だったのは、カプリッチオだった。ヤツはアリアがまだ生きているつもりで「元気にしてるかなあ」と心配した。お前が殺したようなものだろう。

気が付けば実行部隊とやらの隊長を任されていた。そこに、セレナーデという面白い新人が入った。爆発物の知識以上に、ララバイが注目したのはやはりその眼だった。

わかりやすい目をしていた。かつてのアリアのように透き通っていたわけではない。むしろ、狂気一色に塗りつぶされていた。

<sup>ふくしゅう</sup>復讐のためなら誰でも利用してやる、たとえ自身の命さえも。

その単純さをララバイは気に入った。

そしてもう一つ、しばらくしてララバイは思い出した。目つきがまるで違うが、セレナーデの顔を以前にも見たことがある。

たしか、アリアの幼馴染、だったか。最後にアリアと会ったとき、アリアが楽しそうに見せてくれた近況報告のなかに、セレナーデの姿を何度も見た。

大切な人だったのだろう。セレナーデを物語るアリアの瞳は、幼い子供のきらめきを少しだけ取り戻していた。

ララバイの率いる実行部隊も名ばかりで、簡単な任務以外はララバイ自身がこなしていた。アリアを殺したときに使ったナイフを、形見代わりにセレナーデに渡したが、実際に割り振った仕事は、潜入と呼べない単純な任務と、予備の爆弾の作成だった。



## Goodnight Aria

ほかに話すこともなく、二人の会話は自然とアリアの話題になった。セレナーデもララバイも、互いが知らないアリアを知りたがった。

アリアが死んでしまった日の話になると、お互いの口は重くなっていった。どうやら、アリアの死は自殺と報道されていたらしい。いまここで真実を言ってもセレナーデを傷つけてしまうだけだろう。「その時期は遠いところで任務をしていた」とララバイはウソをついた。

失踪する日の翌日、セレナーデはアリアの誕生日パーティーを開く予定だったらしい。「お葬式になっちゃいました」

とセレナーデは笑った。ララバイは、線香の一本も上げに行けなかったと謝罪をした。

アリアの死体が見つかったころ、ララバイは遠く、ヘラ市の夏音本部へ戻っていた。自分は本当にアリアを解放できたのか、お葬式でアリアの眼を確認できなかったことだけが気がかりだった。

だから、  
「<sup>きれい</sup>綺麗でした」

綺麗な死に顔だったと聞いた瞬間、ララバイから感情があふれ出した。

よかった、  
よかった、  
よかった、  
よかった。

よかった。自分はアリアを救ったのだ。  
大粒の<sup>あんど</sup>安堵と一筋の<sup>せきりょう</sup>寂寥が、<sup>ほお</sup>頬をつたった。

ファロス灯台爆破計画。フーガから<sup>しょうしゅう</sup>招集をかけられたとき、ララバイはこの大仕事をセレナーデに振ってやることにした。

「爆弾専門家、初仕事だ」

なあ、セレナーデ。  
アリアの<sup>いっしゅうき</sup>一周忌にはひときわ大きな線香を<sup>たむ</sup>手向けてやろうじゃないか。

# 事件の記録

## 隠れ家到着～爆弾設置

- 11/29 20:00 途中でセレナーデと合流し、ウラミワ市に到着。隠れ家に行くと、ほかの人はすでに着いていた。
- 21:00～ 顔合わせと作戦会議。セレナーデがカプリッチオをにらんでいた。
- 22:15 シンフォニーが外出した。ほかの人はリビング・ダイニングに残ったまま、好き勝手にしていた。セレナーデと爆破計画の詳細を詰めた。セレナーデがカプリッチオを無視していた。
- 22:30 キャロルが外出した。いつにも増して狂った目をしていて。大きな天体望遠鏡と、見覚えのある袋を持っていた。マリボネの蜂蜜酒でも頼んだのだろうか。
- 23:17 爆弾を設置するため、車でセレナーデとファロス灯台へ向かった。家を出るとき、カプリッチオが2階へいき、シンフォニーが帰ってきた。道中、警官の姿が多い。
- 23:29 ～ 11/30 01:36 ファロス灯台到着。爆弾設置。  
ファロス灯台に着いたが、妙に施錠と警備が厳重だ。注意して潜入した。内部の巨岩も破壊できるように爆弾を設置した。起爆スイッチのボタンには、自分かフーガの指紋がないと外れないカバーが付いている。  
セレナーデとはいろんな話をした。口にせずとも、隠れ家の中を調べたいことが分かった。いいだろう。2階の奥の廊下<sup>ろうか</sup>を壁伝い<sup>づた</sup>に歩くと隠し扉がある、と教えた。  
アリアは星が好きだったらしい。星を見ながら蜂蜜酒<sup>はちみつしゅ</sup>が飲みたくなった。  
地元のは全部嫌いだった。ただ、アリアの誕生日プレゼントに困ってお土産ついでに渡したら、アリアが喜んでくれたのだ。それ以来、蜂蜜酒だけは好きだった。  
「すこし、星と飲んでから帰るよ。セレナーデもどうだい？」  
やはりセレナーデは隠れ家が気になるようで、申し訳なさそうに車で帰った。

# Goodnight Aria

## 酒盛り～朝

- 01:36～01:53 一人きりで星と飲んだ。飲みながら、いろいろ考えた。  
セレナーデが何を探しているのか悩んでいたら、アリアのスマホを思い出した。フーガが隠れ家に持ってきていてもおかしくない。あの時はロックが外せずに中身が見られなかった。もう一度試してみたい。  
ファロス灯台を離れた。
- 02:42 隠れ家についた。普段なら徒歩 30 分の道を、酔っ払っていたせい  
か 50 分近くかけてしまった。  
リビング・ダイニングには、シンフォニーとカプリッチオがいた。  
そのまま 2 階へ上った。
- 02:42～03:12 3 階へ行き、倉庫を調べてみたが見つからない。探している途中で、  
下の方から奇妙な歌が聞こえ、ひどい頭痛がした。それに眠くて仕方がない。フーガの部屋は明日調べることにして、下に降りた。  
カプリッチオが部屋の扉を開けて、怪訝<sup>けげん</sup>そうな顔をしてきた。会釈<sup>えしゃく</sup>  
して通り過ぎた。自分の部屋に戻った。  
あれ？ カギが開いている？ それに見覚えのないものが.....、と思  
ったが眠気<sup>ねむけ</sup>に負けてしまった。
- 06:10 改めて部屋を見渡すと、実行部隊の倉庫から盗まれたはずの変装道  
具が落ちていた。イヤな予感がするが、リビング・ダイニングに集合  
した。
- 06:45 カプリッチオがフーガを呼びに行き、死体を発見した。

## キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。

### 昨夜の記録      ？ ？ ？

何を書いてあるか、予想できない。誰も調べないといいが。

### 持ち物 A      変装道具

実行部隊の倉庫にあったものだが、最近盗まれていた。仮面をつけていて変装しやすいフーガはもちろん、隠れ家にいる誰にでも変装できる。実際、アリアに会いに行った時もカプリッチオに変装していた。

声を変えることはできず、現在、誰かが変装している様子はない。

アリアのポケットに入っていた、カプリッチオへの指輪をこの中に入れてある。

### 持ち物 B      起爆スイッチ

ファロス灯台に仕掛けた爆弾の起爆スイッチ。ボタンにはプラスチックのカバーがかかっており、自分かフーガの指紋でなければ開かない。

ポチッと押した瞬間に、ファロス灯台は中の巨岩ごと吹き飛ぶだろう。

効果:                  エンディング、カバーが開かれた状態で、所有者が押すことができる。

### 切り札      目星

昔から視線に敏感だった。隠し事をするというなら、暴いてやろう。

これを全体公開しても、アリアを殺した証拠になることはない。そのほかのデメリットも存在しない。

効果:    全体公開された状態で、ゲーム中、1回使用可能。

現在所有していないカードが対象（調査できないカードを含む）。

指定したカードを1枚、全体公開にする。

## プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。  
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

BONUS は最終投票の後に時間がありますので、GM にこっそりと教えてください。

<b>フーガ殺害の犯人を推理する</b>	<b>0 点</b>
<b>生存する</b>	<b>7 点</b>
<b>セレナーデが生存する</b>	<b>2 点</b>
<b>アリアのスマートフォンの中身を見る</b>	<b>1 点</b>

BONUS:

**他の人が南西飛び地をどう思っているか知る** 各 **0.5 点**

## プレイヤーへのアドバイス

- ・犯人として拘束されると、エンディングがどうなろうと動けなくなってしまいます。怪しく見られないように気を付けましょう。
- ・セレナーデは明らかにアリアの復讐をしようとしています。ヘイト管理に気を付けましょう。
- ・地獄を期待しています。

## ララバイ視点の登場人物

ララバイは全員の経歴を知っていますが、これはララバイの独自調査によるものです。多くのプレイヤーは互いの素性を知りませんし、ララバイに知られているとも思っていない。

### PC1: シンフォニー

200年4月に加入し、9月に情報部長になった。元警察官で、警察の動向に関する情報をつかんでくる。視線の動かし方から、当局のスパイだろう。事実、こいつが入ってきてから、情報漏洩が増えた。

トエ市出身。禁煙して3年目だそうだ。

ていねいな物腰の裏で、ララバイを「視線に<sup>おび</sup>怯えるような小心者」と見下している。

### PC2: セレナーデ

アリアの幼馴染で、ヨウテラベ市出身。アリアからはレンと呼ばれていた。

<sup>いちず</sup>一途に復讐だけを考えている、いい目をしている。守ってやらなければ自分の命すら利用するだろう。

ファロス灯台では隠し扉の探し方を教えた。

朝、リビング・ダイニングに行ったら、申し訳なさそうな目をしていた。

### PC3: ララバイ

自分自身。周りの人からはバカにされている。

### PC4: キャロル

国立コウトスミ大学文学部の大学院生。夏音の創立メンバーで、アリアやロンドと研究をしていた。カラクサウラ市出身。飛行機が怖いそうだ。

とびぬけて危険な眼をしており、何をたくらんでいるかわからない。こんな人間を近くに置いていたフーガの気が知れない。

セレナーデを見て顔をしかめていたので、セレナーデに忠告しておいた。

## PC5: カプリッチオ

アリアの恋人。アリアを死へ追いやった張本人。γ国の出身であり、訛りが聞いて取れる。カプチャーノが好きだそう。

現役の政府官僚にして夏音の創立メンバー。しかし、何かを知っていたというより、尊敬するフーガの後を追う、という理由で夏音にいたように見える。

それが昨晚、何を知ったのだろうか。決意を固めたような目が変わった。

## NPC: アリア／アリアケ・アオイ

誕生日は11月30日。最愛の人。ヨウテラベ市出身。

出会ったころ、アリアがまだ国立コウトスミ大学文学部4年生だったころ、その瞳は澄み切っていた。くりぬいて太陽にかざしてみたら、きっと七色に輝いただろう。

残念ながら、あの頃のアリアはもういない。夏音にいるうちに、カプリッチオと一緒にいるうちに、<sup>にこ</sup>濁ってしまった。

だから。せめて、この手で刺してやった。

## NPC: フーガ

夏音の創立者。<sup>げんしゅ</sup>元首補佐官として働いていた。χ国の経済成長の影の<sup>こうろしゅ</sup>功労者と言われたが、5年前に<sup>しっそう</sup>失踪した。199年の経済不安の際も、元首補佐官さえいれど<sup>お</sup>惜しまれた。ウラミワ市出身。

仮面の奥の瞳は、何かを隠しているような、何かを恐れているような、何かにとりつかれているような、そんな目をしていて。

以前盗み見たとき、フーガのスマートフォンのパスワードは『C』から始まる6桁/文字だった。

## NPC: □ンド

国立コウトスミ大学文学部の民俗学教授。アリアやキャロルと研究をしていた。χ国の考古学・民俗学・言語学の権威で、古代アコール語の解説でも知られる。ベイト市出身。

## 知識・記憶

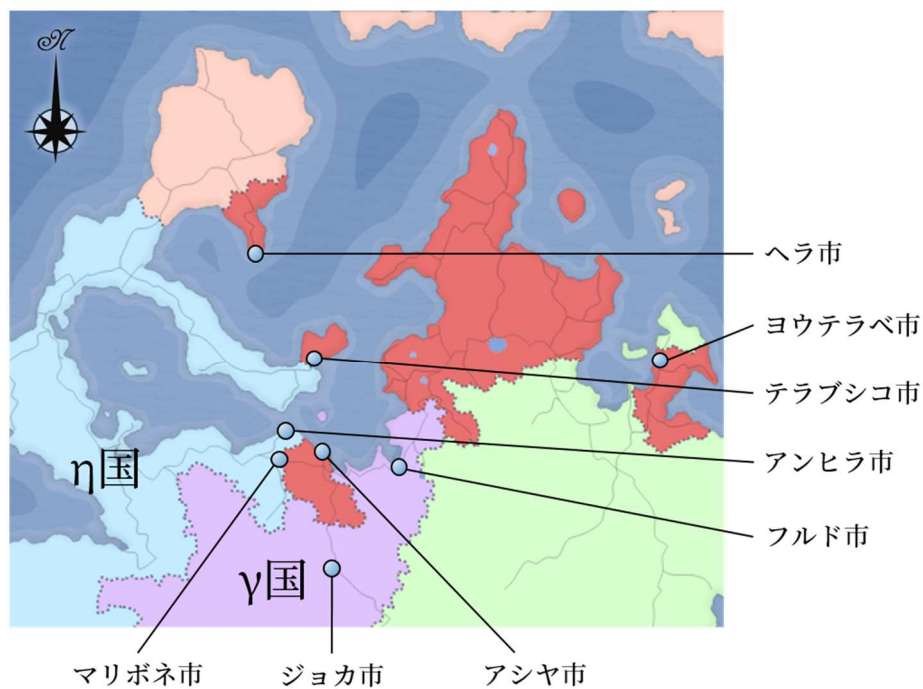
今までの話の補足です。ざっと目を通し、気になったら確認するといいいでしょう。

### χ国

かつては覇権国家でしたが、70年前の敗戦で重要な都市を割譲しました。その際、本国から切り離され、「残りカス」と蔑まれたのが、南西飛び地です。南西飛び地に限らず、飛び地から本国や他の飛び地への交通は制限されており、非常に面倒くさいです。

χ国の経済は敗戦後、低迷していたところ、20~30年前に急激な成長を遂げました。しかし、3年前の経済不安で再び転落、差別が激化しています。

差別の中に「<sup>とうぞく</sup>冬族差別」というものがあります。<sup>しゅんかしゅうとう</sup>春夏秋冬の4階級は戦後廃止されましたが、最下級層「冬族」に対する差別は人々の意識の中に深く刷り込まれています。



### ヘラ市

北西飛び地の都市です。ヘラ市に限らず、北西飛び地には経済推進都市がありません。夏音の本部や国立コウトスミ大学のキャンパスがある学園都市のためか、偏見が少なく、ララバイにとって過ごしやすい場所でした。



# Goodnight Aria

## ヨウテラベ市

東飛び地の経済推進都市で、「ファイ」と呼ばれる黒い超高層ビルが建っています。  
アリアとセレナーデの生まれ故郷です。

## テラブシコ市

西飛び地唯一の経済推進都市です。「エフ」という黒い超高層ビルが建っています。

## アンヒラ市・フルド市

いずれもχ国の重要都市でしたが、敗戦時、割譲されました。

## アシヤ市

南西飛び地の中で最も発展した都市ですが、経済推進都市ではありません。

## ジョカ市

ガンマ  
γ 国の都市です。両親の出身地です。

## マリボネ市

ララバイの出身地で南西飛び地の経済推進都市です。はちみつはちみつしゅの生産地で、蜂蜜酒や  
らハチミツアイスクリームやらを売っています。

黄色の超高層ビルが建っていますが、正式名称は調べてもよくわかりません。

## エラド市

場所はわかりませんが、経済推進都市だったと記憶しています。

## 夏音

フーガが設立した秘密結社です。

創立メンバーはフーガ、ロンド、カプリッチオ、キャロル、アリアの5人です。自分  
が加わったのは創立後すぐです。シンフォニーが入ってきたのは、1年半ごろ前です。  
今年の3月にセレナーデが入ってきました。

ララバイの調査能力でも組織の目的はわかりませんでしたが、ここにいる5人はそれ  
ぞれの思惑があるようです。

本部はヘラ市にあり、国立コウトスミ大学の民俗学研究室と密接なつながりがありま  
す。

## ファロス灯台と超高層ビル

超高層ビルを調査してわかった奇妙な共通点があります。それは、どの超高層ビルにも巨大な岩が使われている、ということです。そういえばファロス灯台にも巨大な岩がありますね。

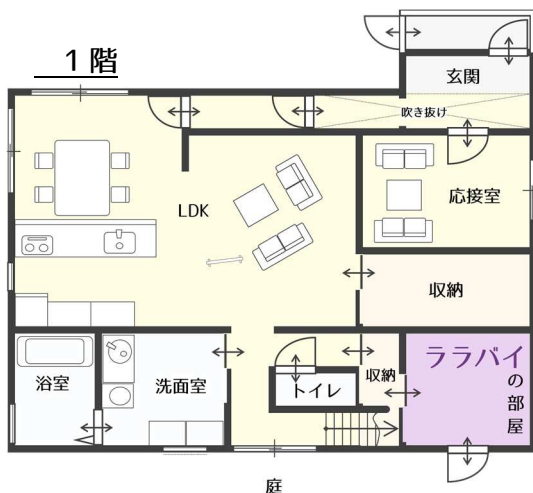
## ヨウテラベ市図書館員自殺

199 年 11 月 29 日から行方不明となっていたアリアケ・アオイさん（24）が、12 月 2 日朝、ヨウテラベ市郊外、現在使用されていないビルで遺体となって発見されました。警察は人間関係などを原因とする自殺として捜査を進めています。

# Goodnight Aria

## 隠れ家

ウラム市にある夏音の隠れ家です。2階建ての一軒家に見えますが、3階建てです。  
あなたは幹部なので、隠し扉の向こう側を知っています。

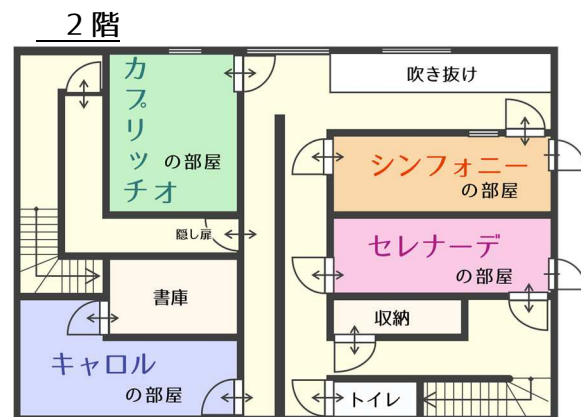


1階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

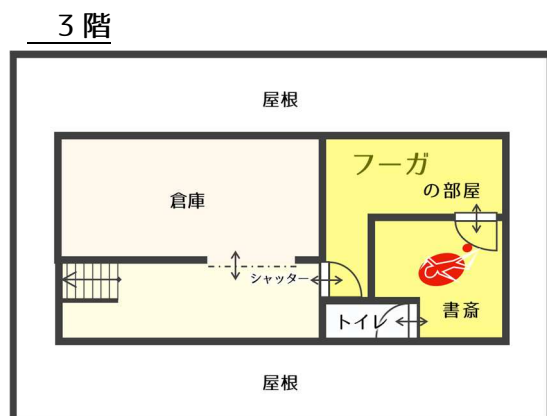
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるぎました。



フーガの死体は3階のフーガの『書斎』で発見されました。（赤地に白の人型）

PCの部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。

## A4 一枚でわかる時系列

1??/05/02	<u>ララバイ</u> が生まれる。
197/07	夏音に加わる。 <u>アリア</u> と出会う。
199/07	経済不安により、差別激化。失職して、夏音で雇用。
200/03	<u>アリア</u> が夏音を脱退。
201/05	脱退したメンバーとの接触が禁止される。
11/29	<u>カプリッチオ</u> に変装。 <u>アリア</u> と会い、殺す。
12/01	<u>アリア</u> を殺したと報告。 夏音が「メディアで洗脳されてしまう」と主張する。
12/02	<u>アリアの遺体</u> が発見される。自殺として報道される。

202 年 11 月

29 日 20:00	<u>セレナーデ</u> と合流後、隠れ家に到着。
22:15	<u>シンフォニー</u> が外出。
22:30	<u>キャロル</u> が外出。
23:17	<u>セレナーデ</u> と車でファロス灯台へ行った。
30 日	出がけに <u>シンフォニー</u> と入れ違った。
01:36	<u>セレナーデ</u> が車で戻った。
01:53	ファロス灯台を離れた。徒歩+酩酊で50分かった。
02:42	帰ると、 <u>シンフォニー</u> と <u>カプリッチオ</u> がいた。
02:42～	倉庫を探したが、 <u>アリア</u> のスマホはなかった。
02:50	奇妙な歌が聞こえた。
03:12	<u>カプリッチオ</u> に見られる。部屋に違和感。
03:20	就寝。
06:45	死体発見。ゲーム開始。